

石油化学新報

PETROCHEMICAL NEWS

週2回刊

購読料金 1年(本体82,000円+税)
半年(本体44,000円+税)

編集印刷 (株)重化学工業通信社 発行人代表者 吉田 耕 造
本社 東京都千代田区神田須田町 2-11 (協友ビル) 大阪編集室 大阪府大阪市北区梅田1-11-4-1600
〒101-0041 電話 03(5207)3331(代表) Fax. 03(5207)3333 〒541-0052 電話 06(6346)9958 Fax. 06(6346)9959

< 禁無断転載・翻訳 >

Jchem-News (ジェイケムニュース) では石油化学新報の記事をメールにて毎日配信中、詳細はjchem.jpを御覧下さい。

2024 年 1 月 19 日 (金) 発行 第 5748 号

インタビュー	◇積水化学・加藤社長に聞く～成長に向け積極投資／新事業にも期待 －HUD用中間膜の二ケタ成長継続／過去最高益へ－	2
事業戦略	◇日鉄ケミカル、九州製造所のBPA10万tを休止～3月末で販売終了	4
	◇富士フイルム、熊本で先端半導体材料を増強～2025年春稼働	5
	◇ワッカー、チェコでシリコン特殊製品の拠点を新設～2025年末	6
	◇エア・ウォーター、日東電工とバイオマス由来CO ₂ からギ酸製造	6
	◇TOYO TIRE、サステナブル素材比率90%のタイヤを開発	6
	◇アクゾノーベル、社会課題解決に向け蘭のプロジェクトに参加	6
	◇川崎重工など4社、液化水素サプライチェーンのFEED業務で協定	7
	◇日揮など、SAF向けの廃食用油調達で東京メトロと基本合意	7
	◇東レ等、妊娠高血圧腎症の血液浄化治療法について共同研究を開始	8
	◇日本ゼオン／兵庫県立大学、医療・LS分野で連携・協力協定	8
	◇米H. B. フラー、ドイツの接着剤工場でISCC PLUS認証取得	9
	◇ユシロ化学工業、有機分子光触媒で初めてPIAJ認証を取得	9
	◇三菱ケミカルG、植物由来PCDが建材塗料で初採用～ローソン	9
アジア戦略	◇山東聯盟化工、中国山東省で生分解性のPBATプラントを建設	10
	◇広西華誼能化、100万tのMTO設備のEPCを恵生工程に発注	10
	◇盛虹石化、連雲港でPETG13万t設備稼働～国内最大メーカーに	10
	◇江蘇斯爾邦石化、連雲港で10万tのNBRラテックス設備を稼働	11
	◇中国企業、海南省で3万tのPOE設備を稼働～太陽光パネル向け	11
	◇印エーテル等、サステナブルポリオールを商業化	11
	◇IHI／ペトロナス、アンモニア専焼ガスタービン商用利用で合意	12
新製品	◇積水化成品、「テクノゲルAI-FIT」の高密着タイプを開発	12
環境関連	◇ボレアリス、ベルギー拠点でOCS認証取得～プラ製造企業初	12
	◇ヘンケル、サウジアラビア拠点で廃棄物の完全循環を達成	13
需給動向	◇ABS樹脂、2023年国内出荷1%増／車両用のみ増加～輸出18%減	13
	◇合成ゴムの2023年10月品種別生産・出荷実績～合成ゴム工業会より	14
政府・団体	◇中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議、豊田市・田原市が加盟	14
	◇可塑剤工業会・竹内会長～2024年は内需回復に期待	15
市況	◇ユニチカ、スパンボンド不織布を値上げ～2月1日出荷分から	15
	◇ユニチカ、スパンレース不織布を値上げ～2月1日出荷分から	15
サマリー	◇新增設計画 <2024. 1. 12～2024. 1. 17号より>	16

＜インタビュー＞

◇積水化学・加藤社長に聞く～成長に向け積極投資／新事業にも期待

－HUD用中間膜の二ケタ成長継続／過去最高益へ－

積水化学工業は、継続的に実施してきた構造改革やポートフォリオ強化策が奏功し、2023年度通期営業利益と当期純利益においてそれぞれ1,000億円および750億円と、厳しい事業環境が続く中でも過去最高益を見込む。2023年度にスタートした現中計（～2025年度）では、新事業の「仕込み」も含め成長投資を積極的に推進している。現況や今後の戦略について、加藤敬太社長に聞いた。

－2023年を振り返って

2020年にコロナ禍で売り上げが大幅に下がった時、構造改革や付加価値品へのシフトに加えて、価格転嫁によるスプレッドの確保に努めた。価格転嫁ができなければ撤退も視野に入れ、覚悟を持って進めた結果、今もコロナ前のスプレッドを維持できている。モビリティを中心に高付加価値製品の拡販が順調に進んでいることも業績に寄与し、上期は増収増益を達成できた。通期では年初計画と比べて住宅カンパニーの利益予想を下方修正

したものの、高機能プラスチックカンパニーと環境・ライフラインカンパニーがカバーすることで、営業利益1,000億円の目標は達成できるとみている。

高機能プラスチックカンパニーの高機能中間膜は、採用車種拡大に伴い自動車生産台数の増加を上回る成長を続けている。中でもHUD（ヘッドアップディスプレイ）用中間膜の伸長率は年率20%を超える。遮熱中間膜もEV（電気自動車）向けの需要が伸びている。

環境・ライフラインカンパニーでは、2023年11月に信越ポリマーの管材事業を買収した。当社の管材事業の生産シェア拡大につながるほか、これまでつながりの少なかった顧客との関係ができることで、管材に限らない製品販売のきっかけにもなる。既存顧客に対し、距離的に近い当社の工場から出荷可能になるメリットもある。管材事業はインフラを支える事業であり、当社はゲリラ豪雨に対応した高排水の製品群なども揃えていることから、価格とシェアで争うコモディティにはならず事業が展開できるだろう。



加藤社長

ー中計初年度の評価は？

引き続き成長ドライバーは高機能プラスチックカンパニーが担う。加えて、環境・ライフラインカンパニーが構造改革やスプレッドの確保、重点拡大製品拡販の進展によって2期連続で最高益を達成する見込みであるなど、成長に寄与するカンパニーになってきた。

一方で、住宅カンパニーは、前中計期間の鋼材・木材・住設資材の値上がりや物価高から、住宅に対する消費者マインドが冷えており、住宅着工件数の減少という形で影響が表れている。同カンパニーにおいては上期に緊急の収益改善策をまとめ、2024年度以降の回復を目指して取り組んでいるところだ。上期末から一部配置転換を進めており、新築販売が減ったことで手の空いている間接人員を現在堅調なリフォーム事業にシフトし、リフォームの営業部隊を拡充する。リフォームは断熱やソーラーパネル、蓄電池など補助金を利用できるリフォームが多いことに加え、当社が過去に建てた60万棟ほどの既存住宅の定期点検に人手を回すことで補修やリフォームの機会発掘につながるため、人員増の効果が期待できる。

ー設備投資の進捗は？

現中計ではメリハリをつけて投資をすすめる方針で、全事業についてポートフォリオの管理強化を進め、各事業の役割を明確化している。資本効率性・収益性と売上高成長率を軸に、現に成長している「成長牽引」、今後の収益拡大が見込める「成

長期待」、収益性が高い「収益基盤」および「体質強化」に分け、成長牽引と成長期待に集中して投資を行う。前中計からの投資だが、オランダの鉄道用まくらぎ向けF F U(合成木材)工場(2023年10月完成)や米国の放熱グリス工場(2023年10月稼働)など、当社の成長を支える事業へ積極的に投資している。

成長牽引事業である管路更生(老朽水道管の補強・修繕法の一つ)のS P R工法(硬質塩ビ樹脂等を用いた工法で通水しながら施工可能)は市場開拓を積極的に進めており、欧米での現地生産に関するF S(実行可能性調査)を進めている段階だ。

高機能中間膜は、中間膜全体の能力を変えず、生産品目のシフトによって増産している。現状、機能性を付与していない中間膜の生産比率は3割と、高付加価値品の比率が上がっている。世界の自動車市場では、付加価値の高い中間膜の使用率は3割ほどで、当社はその中でも付加価値の高い領域に特化している。HUD用中間膜は米国、オランダ、日本の拠点で生産しており、他の地域でも需要が増えてくれば、設備改造による生産品目拡大も視野に入ってくるだろう。

ー新事業の展開について

フィルム型ペロブスカイト太陽電池は、2025年には30cm幅のロールtoロール生産による販売が少量ながら開始できるだろう。現在は1メートル幅での生産を目指して開発を進めている。競合に先んじて当社製品を世界のデファクトスタンダー

◇江蘇斯爾邦石化、連雲港で10万tのNBRラテックス設備を稼働

盛虹石化の傘下企業である江蘇斯爾邦石化 (Jiangsu Sierbang Petrochemical:Sailboat) は、江蘇省連雲港で年産10万トンのNBR (ニトリルブタジエンゴム) ラテックス設備を稼働させた。盛虹石化が製造する基礎化学品を使用して製品を製造する。

NBRラテックスは耐油性、耐摩耗性、耐熱性、気密性に優れた素材であり、医療用の使い捨て手袋などに使われている。同社によると、医療・健康産業の急速な発展を受けてNBRラテックス市場は拡大しており、2022年における347億8,400万元の市場が年平均12%で成長し、2028年までに693億3,600万元に達すると見込まれている

という。しかし高級NBRラテックスは製造が難しいため、中国国内で生産できる工場の数は比較的少なく、長期に亘って輸入品に依存する耐性が続いている。

しかし、コロナ禍でNBRラテックス製手袋の参入企業が急増。手袋の供給過剰により市場に在庫が溜まっており、業界の見立てでは、在庫解消までにもう1年はかかる見通し。これによりNBRラテックスの需要も低迷しており、江蘇斯爾邦石化の新設備も暫くは低稼働を強いられると予想される。



◇中国企業、海南省で3万tのPOE設備を稼働～太陽光パネル向け

海南省の貝欧億科技は、年産3万トンのPOE (ポリオレフィン系エラストマー) 設備を稼働させた。同設備は2023年10月30日に完工し、引き渡しを受けていたが、12月15日付で合格品の生産に成功した。

中国太陽光発電産業協会によると、中国国内における太陽光発電設備の出力は2030年に550GWを超え、太陽光パネル向け共押出EPEフィルム (共押出POEフィルム：EVAとPOEの共押出フィルム) とPOEフィルムの使用割合は51%を占め、POEの使用量は現状比2倍に拡大すると見込まれている。

◇印エーテル等、サステナブルポリオールを商業化

インドのエーテル・インダストリーズは、サウジアラムコ・テクノロジーズと米接着剤大手のH. B. フラーと、サステナブルポリオールの「CONVERGE」を商業化する。ウレタンのCASE (コーティング、接着剤 [adhesive]、シール材、エラストマー) 用途での差別化に資する製品。CO₂を原料として、最大で40%を含有させた製品で、従来のポ

豊田市は水素を「つくる」「はこぶ」「つかう」の3つの視点から、水素社会構築に向けた同市独自の「豊田市水素社会構築戦略」（仮称）を2024年度中に策定し、同推進会議とも連携しながら順次具体化していく方針。また、水素と合わせてアンモニア活用の可能性についても新たに検討する。これまで、同市では自家用のFCEV（MIRAI）や家庭用燃料電池（エネファーム）の普及促進など、民生部門の取り組みが中心だったが、同戦略策定後は商用部門の取り組み強化をはじめ、サプライチェーンの構築など、多様な分野において幅広く水素を活用していく。

田原市は同推進会議への参画を契機に、「たはらゼロカーボンシティ」の実現、並びに「たはらエコ・ガーデンシティ推進計画」で掲げる7つの主要施策の一つである「エコ・インダストリープロジェクト」の推進を図っていく。また、将来を見据えた企業誘致にも活かしていきたい考え。

◇可塑剤工業会・竹内会長～2024年は内需回復に期待

可塑剤工業会の竹内盛次郎会長（ジェイ・プラス社長）は、1月15日の賀詞交歓会に臨み、可塑剤の国内需要について「2023年は内需の回復が遅れ、輸入品の定着などから20万トンを下回る」との見通しを示した。一方で、半導体市場が上向くとみられることなどから「2024年は内需が回復するとみている」と期待を述べた。同賀詞交歓会は4年ぶりの開催。令和6年能登半島地震を受けて冒頭に黙祷を行い、乾杯は省略した。



挨拶する竹内会長

<市況>

◇石油化学製品の価格改定状況

会社	価格改定製品	改定幅	改定時期	備考
ユニチカ	спанボンド不織布 (ポリエステル製、ポリエステル／ポリエチレン製、ナイロン製、ポリ乳酸製)	+10～15%	2月1日出荷分	前回値上げ：2022年9月 (前回公表ベース)
ユニチカ	コットンспанレース不織布 「コットエース」／コットン&合成繊維спанレース不織布 「エスコット」／リヨセル繊維спанレース不織布「ルベナ」	+10～15%	2月1日出荷分	前回値上げ：2023年6月 (前回公表ベース)

<サマリー>

■ 新增設計画 <2024.1.12~2024.1.17号より>

会社名	国/県	都市名等	案件	設備規模	稼働時期	投資額	備考
広栄化学	千葉県	袖ヶ浦市	研究パイロットプラント		2023/9		新設、研究品のパイロット生産用
J&T環境/JR東日本/JR東日本環境アクセス	川崎市	川崎区	プラスチックリサイクル	200t/d	2025/4		新設、「Jサーキュラーシステム」、設備規模は処理能力
住友ベークライト	台湾	高雄	半導体封止材		2024/7	8億NT\$	増設後、生産能力倍増、「台湾住友培科」
三井物産/セラニーズ	米テキサス州	パサデナ	グリーンメタノール	13万t/y	2024/1		新設、メタノール総能力は163万トン
三菱ガス化学	三重県	四日市市	眼鏡レンズモノマー		2026年		新設、『Episleaf』
栄盛石化/サウジアラムコ	中国・浙江省	舟山	接触分解装置	300万t/y	2027年頃	675億元	新設、「栄盛新材料(舟山)」、投資額は誘導品等との総額、2024/1にMOUを締結
湖南石化	中国・湖南省		エチレン	100万t/y		357億元	新設、シノペック傘下、投資額は誘導品14基と総額
サウジエチレン・ポリエチレン・カンパニー	サウジアラビア	ジュベール	エチレン	18万t/y	2026/上	5億\$	18%増強後118万t、TSOC 75%/ライオンデルバセル25%出資、(EPC)SGC-eTEC
シノケム	中国・江蘇省		PO	40万t/y	2023/12		新設
中煤陝西榆林 能源化工	中国・陝西省	榆林	PP	30万t/y	2026/6		第2期増設、中煤能源傘下、バセル「Spherizone」技術
			HDPE	30万t/y			第2期増設、中煤能源傘下、バセル「Hostalen ACP」技術
			EVA	25万t/y			第2期増設、中煤能源傘下、バセル「Lupotech T」技術
			メタノール	220万t/y			第2期増設、中煤能源傘下
東方希望集団	中国・新疆ウイグル自治区	准東	MTO	80万t/y	2026/12	190億元	新設、「新疆東明塑胶」、UOP/HydroのMTO/OPC複合技術
			メタノール	220万t/y			新設、「新疆東明塑胶」
			PE	40万t/y			新設、「新疆東明塑胶」、Univationの気相法「Unipol」技術
			PP	50万t/y			新設、「新疆東明塑胶」、バセル「Spheripol」技術
BPCL	インド・ケララ州	コーチ	PP	40万t/y	2028年頃	約6億\$	新設、流動接触分解装置川下
ヌーリオン	米ウィスコンシン州	グリーンベイ	コロイダルシリカ		2024/1		増設、5割増
ロETTEケミカル/KNOC/サムスンエンジニアリング	マレーシア・サラワク州		グリーンアンモニア	80万t/y	2028/初		新設、「H2biscus」プロジェクト、KBR技術